

施策評価シート(令和4年度実績評価)

◎施策の基本情報

政策No	0201	政策名	環境の保全	施策主管課	生活環境課	課長名	松原 弘明
政策の目指す姿	豊かな自然と生活環境を守り暮らしています						
施策No	01	施策名	地球温暖化の防止	関係課名			
施策の目指す姿	温室効果ガスの排出に配慮した生活をしています						
現状と課題							
<p><b>【現状】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地球温暖化を防止するためには、温室効果ガスの削減が必要です。</li> <li>自然環境や景観などに影響を与えかねない太陽光発電用パネルの設置が見受けられます。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地球温暖化を防止するためには、温室効果ガス削減に向けた市民一人ひとりの取組が大切であることから、継続的に啓発していく必要があります。</li> <li>温室効果ガスの排出削減を図るためには再生可能エネルギーの導入は必要です。</li> <li>再生可能エネルギーの設備設置については、周辺環境との調和などに配慮する必要があります。</li> </ul>							

◎前年度の評価の振り返り

前年度評価時の今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりが行動に移す動機づけとなるよう、家庭でできる身近な取り組みのほか、地球と私たちとの「つながり」や「かかわり」がわかる情報を発信するなど意識啓発に努める。</li> <li>公共施設への太陽光発電設備の導入について引き続き検討を進めるほか、再生可能エネルギーの適正導入について国や県の動向を注視しながら、防災、景観資源、自然環境、地域住民の生活環境を守るなど環境保全との調和を図るための環境条例制定について検討する。</li> </ul>

反映状況

<ul style="list-style-type: none"> <li>広報はなまきやコミュニティFMを通じ、家庭や職場でできる身近な地球温暖化対策として、特に電力消費量が増加する夏季と冬季にわけて、具体的な節電対策や省エネ対策について周知し、市民や事業者の意識啓発を図った。</li> <li>再生可能エネルギーの適正導入を目的とした条例の制定については、地球温暖化対策の推進に関する法律の一部改正のほか、国による「再生可能エネルギー発電設備の適正な導入及び管理のあり方に関する検討会」での提言を踏まえた関係法令の改正など、再生可能エネルギーを取り巻く状況に変化があったことから、国や県の動向を注視しながら継続して検討している。</li> </ul>
---

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組

<p>(1) 地球温暖化対策の意識啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活や事業活動における温室効果ガス排出削減に対する効果的・継続的な意識啓発</li> <li>節電や資源リサイクル等について広報はなまきや市ホームページ、コミュニティFMを通じた情報発信、地球温暖化防止や自然環境保全をテーマとした環境学習講座の開催、ごみの分別等をテーマとした小学校への出前授業等により啓発を行った。</li> </ul> <p>(2) 省エネルギー型の暮らしへの転換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設等におけるLED照明など高効率機器の導入推進</li> <li>環境管理推進員を通じ「花巻市エネルギー管理標準」について周知し、設備の更新時にあわせた導入を促した</li> <li>再生可能エネルギーの活用促進と省エネルギーを一層推進するライフスタイルの普及</li> <li>ホームページにおいて再生可能エネルギー及び省エネルギーに関する情報を発信した</li> <li>公共施設への再生可能エネルギーの導入の検討</li> <li>公共施設における第三者所有（PPA）モデルについて調査した</li> <li>民間による小水力発電など再生可能エネルギー導入への支援</li> <li>周辺環境との調和のとれた再生可能エネルギーの設置に関する条例の検討</li> <li>地球温暖化対策の推進に関する法律の一部改正されるなど、再生可能エネルギーを取り巻く状況に変化があったことから、国や県の動向を注視しながら継続して検討した。</li> <li>断熱性能に優れた住宅建築の普及促進に向けた検討</li> </ul>
---

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方	成果指標の測定方法	単位	区分	H31	R02	R03	R04	R05	R06
環境にやさしい取り組みを行っている市民の割合	市民自ら環境にやさしい生活をしているかどうかを示す指標。日常生活で実践可能な7項目について質問。①冷暖房の適切な温度設定②テレビ・照明等のこまめなスイッチオフ③食事を残さず食べるなどごみを減らす④適切な火力調節を行うなど省エネを心がけた調理⑤環境に配慮した商品の利用⑥洗顔、食器洗い時等に水を流したままにしない⑦外出時の自転車・公共交通利用や自動車運転時のエコドライブ	出典：市民アンケート 問：あなたは日々の暮らしの中で次のような環境にやさしい取組を行っていますか？ 左記各設問について選択者を集計。更に、各7(8)項目の平均値を算出し、その数値をもって環境負荷の少ない生活者の割合を測る。	%	目標値	61.00	63.00	65.00	67.50	70.00	
				実績値	60.70	54.70	54.60	57.00		
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						

### 3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
D	<p>■成果指標「環境にやさしい取り組みを行っている市民の割合」・・・【達成度c】</p> <p>地球温暖化の防止に係る情報発信や環境学習講座を継続的に実施したことなどにより前年度比2.4ポイント増加した。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、感染症防止対策として外出自粛やテレワーク等により在宅時間が増加し、電気の使用量などが増えたことなどにより、環境にやさしい取り組みが出来なかったと感じる市民がいたものと考えられる。また、感染症が収束に向かう状況においても、テレワーク等が定着するなど生活様式が変容したことも一因と考えられる。</p>

### 4 施策を構成する事務事業の検証

①市民のニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストの割に成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか
なし
<p>施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか</p> <p>(環境学習推進事業)市民の環境保全意識の高揚をさらに図るため、環境マイスター派遣事業や環境学習講座を引き続き実施する。また、冷暖房の設定温度や照明等のスイッチオフ等の直接的に電気使用と関係する項目はいずれも65%を超えているが、節水やガス使用に関する項目は低い割合となっていることから、直接電気を使用しなくとも地球温暖化につながっている項目について解説するなど、よりわかりやすい周知・啓発に努める。</p>
新たに取り組むべき事業はないか
なし

### 5 施策の総合的な評価

課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>地球温暖化防止には、省エネルギー型の暮らしへの転換など、市民や事業者の意識向上や個々の取組が不可欠であり、そのためには、正しい知識と取組みやすい具体的手法を周知する必要がある。</li> <li>温室効果ガス排出量の削減のためには、地域資源を生かした再生可能エネルギーの導入が有効だが、防災はもとより市民の安全で安心な生活環境が守られるよう環境保全との調和を図ることが必要である。</li> </ul>
今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>市民や事業者の行動変容につげられるよう、取組やすい省エネルギー対策や地球温暖化につながる具体的行動などを中心に、わかりやすい情報発信をするなど意識啓発に努める。</li> <li>公共施設のLED化や太陽光発電設備の導入について引き続き検討を進めるほか、再生可能エネルギーの適正導入について国や県の動向を注視しながら、環境保全との調和を図るための環境条例制定について検討する。</li> </ul>

施策を構成する事務事業一覧

No	事務事業名	担当課	施策への貢献度		
	事業内容(活動実績)		対象	意図	成果
			直結度		
020	温暖化対策意識啓発事業（ゼロ予算）	生活環境課	一致	直結	-
	夏季や冬季における節電、家庭でできる地球温暖化防止対策について、広報はなまきや市ホームページ等により意識啓発を実施（広報紙掲載2回、コミュニティFM放送4回、ホームページ随時掲載）			A	
030	環境学習推進事業費	生活環境課	間接・少数	直結	C
	地球温暖化対策や自然環境保全等について学ぶ環境学習講座を実施（生活環境・温暖化対策1回〔12人〕、ごみ減量・温暖化対策1回〔20人〕、自然環境2回〔23人〕）			B	